



教育長 田中 庸寛

草木の緑がまぶしい季節となりました。新年度からの環境変化などにより、疲れがたまりやすい時期です。休息を十分にとる、趣味の時間を充実させる、悩みを1人で抱え込まず周囲に相談するなど、ストレスを溜めないようにしていきましょう。

本通信では、年度をまたいで令和5年度の市川教育の方向性をお知らせしてきました。方向性の一つとして掲げている、「コミュニティ・スクールを活用した家庭・学校・地域の連携の推進」は、市川教育の特徴の一つであり、今後も充実・発展させていきたいと考えています。そこで、その成果の一つとして、昨年度、「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞した、菅野小学校学校運営協議会（第二中ブロック地域学校協働本部）による通学路の見守り活動の概要をお知らせします。

菅野小学校は、学区に幹線道路が延線・開通したことに伴い、交通量の大幅な増加等が見られるようになり、児童の安全な通学の保障が課題となっていました。そこで、学校運営協議会では、児童の様子や危険箇所についての情報交換を行い、登下校の見守り方法や効果について共通理解を図りました。そして、地域学校協働活動として、地域の方が登下校の見守り活動を実施しました。地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員を兼ねることで学校の課題を把握し、地域ネットワークを活用して学校の課題解決に向けて取り組んでいただけた好事例であり、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」を一体的に実施している本市だからこそ、取組を効果的に展開できたと考えています。

また、市川教育の方向性の一つでもある「学校部活動の地域移行」についても、地域の力が欠かせません。地域の方のお力添えをいただき、教職員の負担軽減を図り、やりがいをもって教育活動に専念できる環境を作り出すとともに、地域の方にもやりがいを感じていただける好循環を生み出してまいりたいと考えています。地域によって課題は異なりますので、各園・学校においては、家庭や地域の方と現状を把握するところから丁寧に進めてまいります。

一方、子どもたちについては、いじめ問題や長期欠席児童生徒の増加を心配しています。ゴールデンウィーク明けの子どもたちの様子をよく見て、子どもに寄り添った支援を行ってまいります。

今月8日から、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に移行しました。基本的な感染予防対策を図りつつも、これからの学校教育は、「ウィズコロナ」という考えの下、思い出に残る学校行事の実施を目指し、子どもたちが集い、交流し、コミュニケーションを図る場を積極的に提供してまいります。